

- 昨年9月の「中間まとめ」で示した「高等学校基礎学力テスト(仮称)」の具体化に向け、これまで高校、教育委員会、団体、民間事業者など関係者・団体との間で幅広く意見交換等を実施してきたところ。

【別紙1参照】

- その際、関係者からは、
 - ー 基礎学力テストの趣旨や指導改善への活用の明確化に賛同する声や、自治体として生徒の学力を把握するツールや既存の学力テストの代替として活用したいとの声があった。
 - ー 一方で、
 - ・ 基礎学力テストの目的は様々な要素があるので、よりわかりやすい形で示せないか、
 - ・ CBT導入にあたっては、入念なシミュレーションなど慎重な検討を行うべきではないか、
 - ・ IRT導入では、問題が非公表とされているが、テスト結果を指導改善にどう生かすのか、

など、**基礎学力テストに関し、より具体的な仕組の提示を求める指摘・意見**が多く寄せられた。

【別紙2参照】

このため、「最終まとめ」に向けて、**中間まとめで提示した基礎学力テストの枠組をベースに、より具体的な仕組を検討・提示するとともに、来年度以降、予算事業等を通じた準備・試行を実施することを目指す。**

＜参考＞ 都道府県教育委員会等高校関係者からの主な指摘事項 ※ 別紙2参照

- 基礎テストの目的については、大学入学者選抜等への活用ではなく、指導改善に用いることや生徒が自分の学習の到達度を把握することなど高校教育の質確保であることを、もっと分かりやすく示す工夫が必要ではないか。
- CBT導入に当たっては、各学校等のICT機器の整備状況に左右されるため、マンパワーの確保及びハード整備の両面から慎重に検討するとともにシミュレーションを入念に行うなど十分検討すべきではないか。
- IRT導入では、問題が非公表とされているが、どのように指導改善に生かすのか。
- 指導改善に生かすのであれば、基礎学力テストの受検時期は、高校2、3年次よりも前にすることが望ましいのではないか。
- 進学や就職に活用されないテスト／もっぱら指導改善に活用するテストについて、受検料を徴収するための説明が必要であり、受検料に見合う出題内容や、結果などのフィードバックができるのか。
- テスト結果の活用方法については、様々な意見が提示されている。
 - ✓ 結果が大学入試選抜や就職等に活用されると、高校が基礎テスト対策に追われるなど本来の目的が達成されなくなるのではないか。
 - ✓ 結果によって、進学や就職等の生徒の進路を狭めるような影響・弊害が出ることはないよう工夫・配慮が必要ではないか。
 - ✓ 活用例を具体的に示すことで受検が広がるのではないか。指導改善のみで生徒に受検するモチベーションを持たせられるのか。

「高等学校基礎学力テスト(仮称)」の目的をより分かりやすく明示（たたき台）

＜中間まとめで示された「基礎テストの目的」等＞

- 高校生が身に付けるべき基礎学力の確実な育成に向けて、高等学校段階における生徒の基礎学力の定着度を把握及び提示できる仕組みを設けることにより、生徒の学習意欲の喚起、学習改善を図るとともに、その結果を指導改善等にも生かすことにより、高等学校教育の質の確保・向上を図ることを主たる目的とする。
- 高等学校段階において共通に身に付けるべき基礎学力を確実に育成するという上記目的のより確実な達成を目指し、学校単位での参加を基本としつつ、生徒個人の希望に応じた受検も可能とする。
- 「高等学校基礎学力テスト(仮称)」の結果については、国や都道府県等における教育施策の改善に生かすことも必要である。



- 上記目的・位置付けがより明瞭になるように整理するとともに、目的を踏まえた基礎テストの仕組の具体化が必要。
- 検討に当たっては、上記目的を達成できるように検討することを前提に、**実現可能性、費用対効果、学校現場・実施主体への過重な負担の回避**を最大限に考慮して具体化を図る。

「高等学校基礎学力テスト(仮称)」の対象に関する趣旨等の明確化（たたき台）

<中間まとめで示された「対象」>

- ボリュームゾーンとなる平均的な学力層や、底上げが必要な学力面で課題のある層を主な対象として出題する。

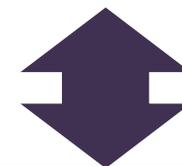
※ 上記の層を対象とした趣旨や留意すべき点をより明確にすることで更なる理解の促進を図る

- テスト結果から**生徒の基礎学力面の課題をきめ細かく把握**することができるように出題することとし、受検については、基礎学力テストの目的や出題内容等を踏まえた上で、**学校または設置者が適切に判断し、基礎学力の確実な育成に効果的に取り組む**ことができる仕組みとする。
- その際、これまで基礎学力の定着に向けて取り組んでいる**高校や設置者の先行事例等を参考**にしなが、基礎学力テストを受験することや結果を否定的な評価として捉えるのではなく、基礎学力の定着を目指す**積極的な取組として社会的に評価されるよう普及啓発等**を行うことが必要である。
- なお、学校が参加していなくても、希望した者については受検できることは担保する。

～ ICT活用をはじめとする様々な教育活動を通じ、生徒の主体的・協働的な学習の確立を目指す～

＜生徒の多様な進路＞

大学、専門学校、就職



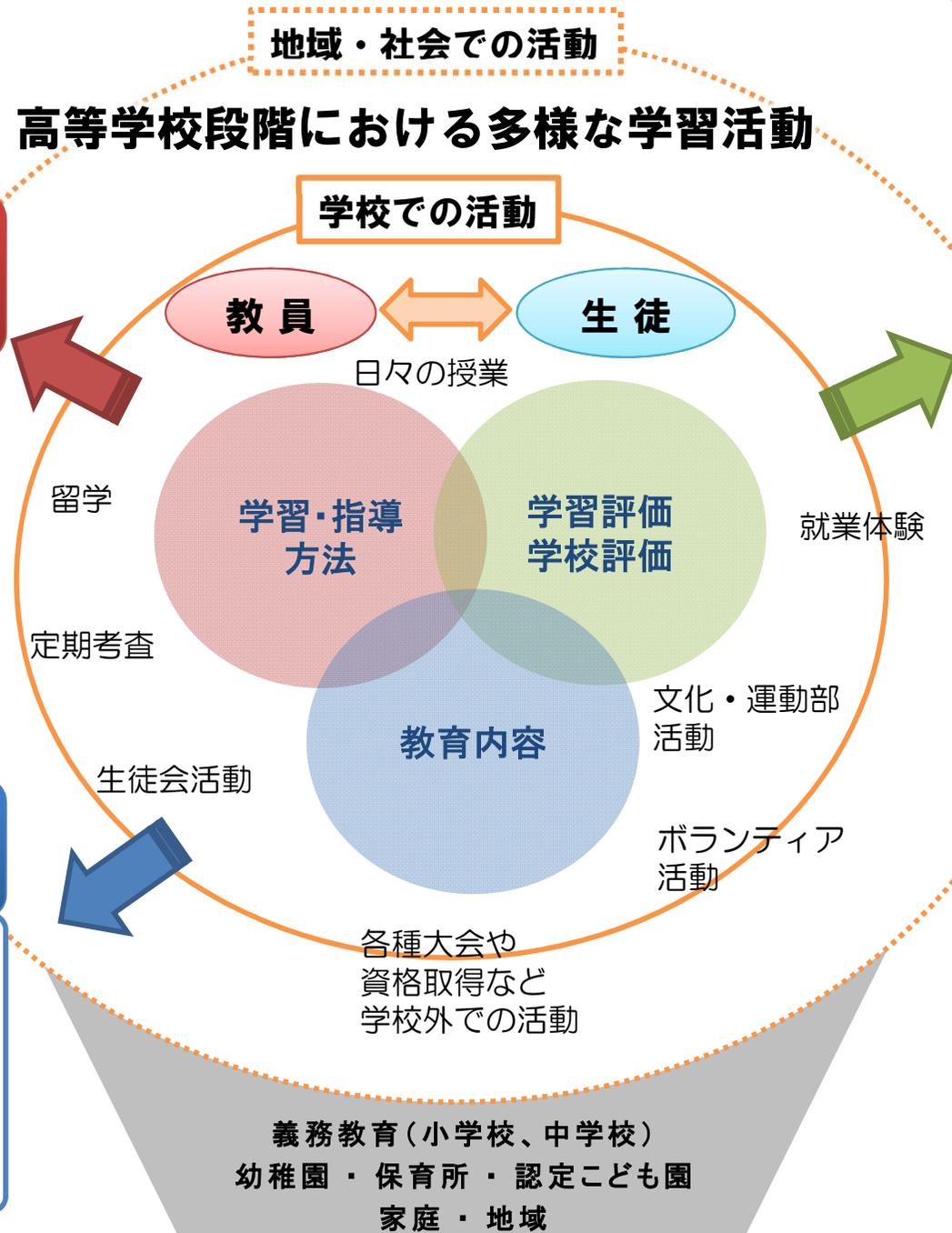
高等学校段階における多様な学習活動

**学習・指導方法の改善と
教員の指導力向上**

- 教員の養成・採用・研修の見直し
 - ・学習・指導方法の改善に対応するための教員の指導力の向上

教育課程の見直し

- 学習指導要領の改訂
 - ・育成すべき資質・能力を踏まえた教科・科目等の見直し
 - ・カリキュラム・マネジメントの普及・促進

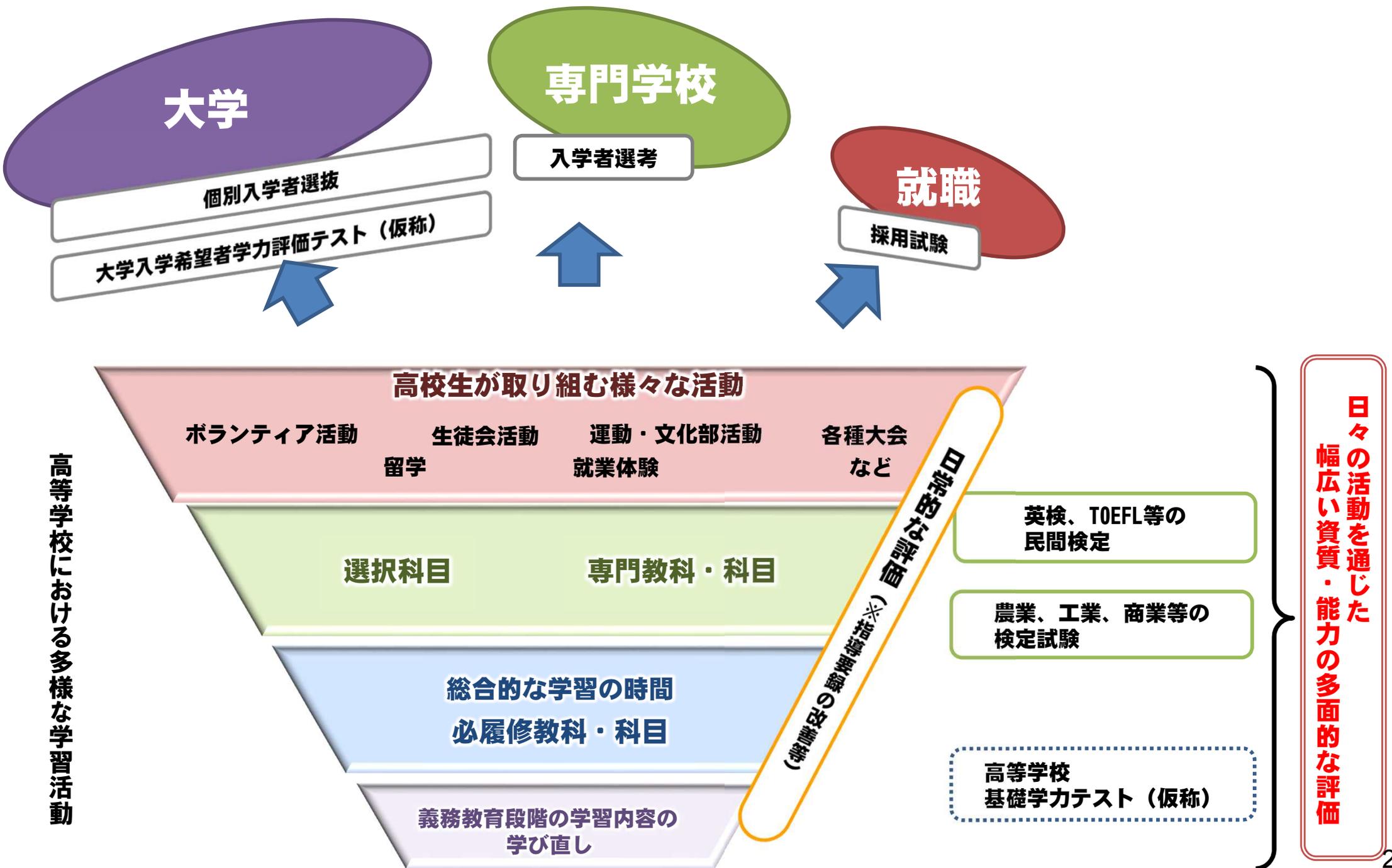


多面的な評価の推進

- 学習評価の改善
 - ・学習評価の在り方の見直し
 - ・指導要録の改善等
- 多様な学習成果を測定するツールの充実
 - ・高校の協力による高等学校基礎学力テスト(仮称)の導入
 - ・校長会等が実施する農業、工業、商業等の検定試験の活用促進
 - ・各種民間検定試験の質的向上と普及促進
- 学校評価の促進
 - ・上記取組を通じて得られた情報に基づく学校評価の充実

高等学校における今後の評価の在り方について（案）

～ 高等学校段階から進学・就職までを通じた幅広い資質・能力の多面的評価の推進 ～



高等学校教育におけるPDCAサイクルの構築(案)

<現状における課題>

- 学校外での学習時間が全くない者が全体の約4割
- 学力中間層の学習時間が減少

➡ 少子化が急速に進む中、このような状況を放置することは
生徒本人とともに **我が国社会にも悪影響**を及ぼす恐れ

- 生徒の**学習意欲の喚起、学習改善**を図ることによる**基礎学力の確実な育成**
- **修学支援の大幅な充実**に見合う**教育の質向上**が不可欠

課題解決に向けて

国・設置者
からの支援

国・設置者
からの支援

- 教育再生実行会議報告や、中央教育審議会高大接続答申に基づく『**高大接続改革実行プラン**』の策定
- 上記プランに基づく **高大接続システム改革会議**での検討
- 国の議論を踏まえ、都道府県など**設置者ごと**の**高校教育充実に向けた計画の立案**

- アクティブ・ラーニングの視点からの学習・指導方法の改善、義務教育段階を含めた学び直しや、教科・科目等の見直し等の**次期学習指導要領の改訂、教科書の作成・検定・採択・供給**など
- 高校教員の指導力向上に向けた**養成・採用・研修の一体的な改革の推進**
- 教員配置等を通じた**指導体制の整備**
- 設置者が設定した目標・計画に基づく **様々な教育施策**の展開

➢ 学校ごとの**教育目標の設定、教育課程の編成、指導計画の作成・見直し** など

Plan

Do

➢ アクティブ・ラーニングの視点からの学習の充実を図るとともに、義務教育段階を含めた学び直し等を行う授業など**多様な教育活動の展開** など

学校現場における『PDCAサイクル』の確立

Action

Check

➢ 学習評価の結果や把握した基礎学力の定着度に基づく改善点等の**生徒への指導改善**や **教材研究**等への反映 など

➢ 日々の学習成果の指導要録への適切な反映など**多面的な学習評価の充実**

➢ **高等学校基礎学力テスト(仮称)**や、校長会・民間が実施する検定試験等を活用した **生徒の学習成果の把握** など

国・設置者
からの支援

国・設置者
からの支援

- 様々な評価結果等から明らかになった指導困難校など支援を要する**高校に対する教員加配や補習指導員の配置など、指導体制の充実**に向けた支援とともに、**今後の教育施策の検証・改善**
- 様々な評価結果等に基づき、**設置者として計画等の改善や教員研修の充実**

- 多面的な評価を行うための**指導要録の改善**
- 特に**高等学校基礎学力テスト(仮称)の導入**は、①高校卒業後の社会生活で求められる基礎学力の定着度を確認するための**良問提供**や、②**CBT-IRTの導入**による**実施時期の柔軟化**及び**指導等に生かすためのテスト結果の速やかな返却**、③不得意分野に関する**類題の提供**等、学校における指導改善を支援

「高等学校基礎学力テスト（仮称）」の導入について

1. 基本的事項

①目的

- 高校生が身に付けるべき基礎学力の確実な育成に向けて、高校段階における生徒の基礎学力の定着度を把握及び提示できる仕組みを設けることにより、生徒の学習意欲の喚起、学習の改善を図るとともに、その結果を指導改善等に生かすことにより高校教育の質の確保・向上を図る。

②対象者

- 上記目的のより確実な達成を目指す観点から、学校単位での参加を基本としつつ、生徒個人の希望に応じた受検も可能とする。
- できるだけ多くの参加を促すため、問題内容、実施時期・方法の工夫や、作問等での高校教員の参画を検討。

2. 具体的な制度設計の考え方

【現行学習指導要領下（平成31年度～）】

①対象教科・科目

- 円滑に導入する観点から、国語、数学、英語での実施（一部の教科・科目を選択して受検することも可能とする）。
現行の学習指導要領において「義務教育段階での学習内容の確実な定着を図る」とこととされていることを踏まえ、義務教育段階の内容も一部含める。

②問題の内容

- ポリリュームゾーンとなる平均的な学力層や、底上げが必要な学力面で課題のある層を主な対象として出題。
- 「知識・技能」を問う問題を中心としつつ、「思考力・判断力・表現力等」を問う問題をバランスよく出題。

③出題・解答・結果提供方式

- 試行を通して、CBT-IRTを導入する方向で検討。紙によるテスト実施も念頭に置きつつ検討。
- 正誤式や多肢選択式を中心としつつ、多様な解答方式を検討。
- 学習の目標になりやすく、学習の成果が実感しやすくなるよう、10段階以上の多段階で結果を提供。また、単元毎など分野別の結果や各設問の出題のねらい等を提供することを検討。

（注）CBT：Computer-Based Testingの略称。コンピュータ上で実施する試験。

IRT：Item Response Theory（項目反応理論）の略称。この理論を用いることによって複数回受検する場合に回ごとの試験問題の難易度の差による不公平を排除することが可能となる。なお、その導入のためには、事前に難易度推定のために全ての問題について予備調査することや多量に問題をストックすることが必要。（例：TOEFL、医療系大学間共用試験等）

④実施回数・時期・場所

- CBT-IRTが円滑に導入された場合、実施時期・回数を制限せずに学校・生徒の都合に合わせて弾力的に運用することが可能。
- 導入当初は、夏から秋までを基本に、高校2・3年で生徒がそれぞれの希望に応じて年間2回受検できる仕組みとし、随時見直し。
- 学校単位で受検する場合には、原則、当該高等学校の施設で実施。個人単位で受検する場合には、生徒の参加見込みも踏まえながら、高等学校や公の施設の利用などを含めて検討。

高等学校基礎学力テスト（仮称）の導入について

⑤受検料

- 受検料は、1回あたり数千円程度の低廉な価格設定となるよう検討。また、低所得世帯への支援策の在り方も併せて検討。

⑥活用の在り方

- 生徒による主体的な活用とともに、高校での指導改善や国や都道府県等の教育施策の改善にも活用。
- 平成31年度～平成34年度までは「試行実施期」と位置付け、この期間は原則、大学入学者選抜や就職には用いず、本来の目的である学習改善に用いながら、その定着を図ることとし、そこで得られた実証的データや関係者の意見を踏まえながら検証を行い、必要な措置を講じる。
平成35年度以降の大学入学者選抜や就職への活用方策については、仕組みの定着状況やメリット・デメリットを十分に吟味しながら、関係者の意見を踏まえ、更に検討。

⑦民間の知見の活用

- 「高等学校基礎学力テスト（仮称）」の公的性質を踏まえ、継続性・安定性に留意しつつ、可能な業務は積極的に民間事業者の知見を活用することとし、英語以外の教科・科目も含め、民間との連携の在り方について検討。

⑧その他

- 名称については、本中間まとめや今後の検討を踏まえつつ、高校生の基礎学力の定着度を診断するという、その目的・性質に応じた適切な名称の在り方について、引き続き検討。

【次期学習指導要領下（平成35年度～）】*

①対象教科・科目

- 高校生の基礎的な学習の達成度を把握する観点から、次期学習指導要領において示される必履修科目を基本として実施することを検討。

②活用の在り方

- 平成35年度以降の大学入学者選抜や就職への活用方策については、この仕組みの定着状況を見つつ、更に検討。

※大学入学者選抜で活用する場合には、2年次の結果は活用しない方向で検討。

※就職時の活用も考えられるが、企業等に対し本テストの結果をもって生徒の可能性が狭められることのないよう配慮を求める。

*学習指導要領の改訂時期については、過去の改訂スケジュールから想定したものである。

高等学校においては年次進行で実施するため、平成34年度に入学した生徒が2年生になる平成35年度から次期学習指導要領対応となる。

■上記内容については、教育委員会、私学団体、普通科や専門学科、総合学科、定時制や通信制課程等の校長会、PTA、大学関係者等と幅広く意見交換を行い、検討を進める。

高等学校基礎学力テスト(仮称)についての高校関係者からの主な指摘事項

中間まとめのポイント	関係者意見
<p>目的</p> <p>○高校生が身に付けるべき基礎学力の確実な育成に向けて、高校段階における生徒の基礎学力の定着度を把握及び提示できる仕組みを設けることにより、生徒の学習意欲の喚起、学習の改善を図るとともに、その結果を指導改善等に生かすことにより高校教育の質の確保・向上を図る。</p>	<p>【教育委員会】</p> <p>○指導改善、生徒が自分の学習の到達度を把握するもの、入試への活用など目的がはっきりしない。</p> <p>○目的が分かりやすく示されないと、既にテスト漬けとなっている中で多様な評価の一環として基礎テストも導入するだけでは学校に受け入れにくい。</p> <p>○基礎学力の確実な育成、高校教育の底上げが必要という理念は理解できる。</p> <p>○PDCAサイクルのツールとして基礎テストが導入されるのであれば、意義を見いだすことは出来る。</p> <p>○どのような問題が出題されるのか。高校卒業までに最低限身につけて欲しい内容や、社会に出て役に立つと感じられる問題が出題されるのであればメッセージとして機能する。日頃の授業で教えていることを問うテストならば使いやすい。</p> <p>【高校】</p> <p>○高校生の学力を客観的に把握できる本テストの必要性は十分理解できる。</p> <p>○企業の人事担当者は使いたいのではないか。期待している。</p> <p>○全国で実施するテストで自分の位置が見えるようなことになれば、自己肯定感や学習意欲が下がってしまう恐れがある。</p> <p>【関係団体】</p> <p>○高等学校教育の質保証の手段なのか、大学進学希望者の学力把握の手段の一つなのか、性格が曖昧であり、目的の明確化がなされるべき。</p> <p>○基本的に賛成。「多様な学習成果を測定するツールの一つ」と位置づけられているが、結果的に唯一のツールとなる恐れがある。</p>
<p>対象者</p> <p>○上記目的のより確実な達成を目指す観点から、学校単位での参加を基本としつつ、生徒個人の希望に応じた受検も可能とする。</p> <p>○できるだけ多くの参加を促すため、問題内容、実施時期・方法の工夫や、作問等での高校教員の参画を検討。</p>	<p>【教育委員会】</p> <p>○学校での指導改善や都道府県等における教育施策の改善に活かすことができるよう、学校単位や教委単位での参加を基本としながら、希望する生徒個人の受検も可能にしていきたい。</p> <p>○指導改善等に活かすならば、3年生での受検では遅いのではないか。</p> <p>○問題作成の体制はどのようになるのか。高校教員を参画させるのは、指導改善の観点からも有意義と考えられる。</p> <p>【高校】</p> <p>○任意だと「基礎テストを受ける下位層の学校」というとらえ方をされ、学校間に序列化が生まれるため、悉皆にすべき。</p> <p>○学校単位での受検となると、受検しなかったことによるデメリットがあるのか気になる。</p> <p>【関係団体】</p> <p>○少なくとも主要教科は、すべての生徒が同一の教科・科目を受検し、高校生の基礎学力を保証する仕組みとすべき。</p>
<p>対象教科・科目</p> <p>○円滑に導入する観点から、国語、数学、英語での実施(一部の教科・科目を選択して受検することも可能とする)。</p> <p>○現行の学習指導要領において「義務教育段階での学習内容の確実な定着を図る」とこととされていることを踏まえ、義務教育段階の内容も一部含める。</p>	<p>【教育委員会】</p> <p>○専門高校において普通科と同じように基礎学力を扱われると、専門教科の取組が変わってくる。</p> <p>○専門高校といえども高校生に共通に求められる基礎学力は有るので、基礎テストを受ける価値はあるのではないか。</p> <p>【高校】</p> <p>○専門科目の活用にも配慮してほしい。</p> <p>○基礎学力の重要性は理解するが、今示されている基礎テストの科目では、専門科目などの多様な学びが評価されずに一面的な評価になる可能性があるのではないか。基礎テストは、数ある評価の中で埋まった形となるよう、工夫してほしい。</p> <p>○義務教育段階の学び直しを強調されすぎると、専門高校で魅力ある学習として取り組んでいる専門科目などが削られる可能性があるのではないか。</p> <p>【関係団体】</p> <p>○必修科目を基本として実施する方針に理解を示す意見が多いものの、高1年次に履修する「国語総合」「数学Ⅰ」「コミュニケーション英語Ⅰ」を履修した翌年度以降に受検することが学習改善につながるのか疑問。</p> <p>○理科が除外されていることは高校生全体の理科離れに深刻な影響を及ぼすのではないか。</p>
<p>問題の内容</p> <p>○ボリュームゾーンとなる平均的な学力層や、底上げが必要な学力面で課題のある層を主な対象として出題。</p> <p>○「知識・技能」を問う問題を中心としつつ、「思考力・判断力・表現力等」を問う問題をバランスよく出題。</p>	<p>【教育委員会】</p> <p>○出題内容が高等学校教育の質の確保・向上にとって有用なものであると実感できるものにする。</p> <p>○どの程度幅広い層に対応できるのか。問題の内容によっては、学力的に本当に困難な層や上位層は受けないのではないか。</p> <p>【高校】</p> <p>○問題内容は、高校レベルにしてほしい。学び直しは各学校で努力すべきこと。</p> <p>○基礎を確認する内容で、かつ、生徒自身が目標設定できることが大事。</p> <p>○本当に基本的なところが出来ているのか確認するため、知識・技能に内容を絞るべき。</p> <p>○高卒認定試験の内容と整合性をとっていく必要があるのではないか。</p> <p>【関係団体】</p> <p>○多様な地域・高等学校が存在するので、画一的なものとしなくてほしい。</p>
<p>出題・解答・結果提供方式</p> <p>○試行を通して、CBT-IRTを導入する方向で検討。紙によるテスト実施も念頭に置きつつ検討。</p> <p>○正誤式や多肢選択式を中心としつつ、多様な解答方式を検討。</p> <p>○学習の目標になりやすく、学習の成果が実感しやすくなるよう、10段階以上の多段階で結果を提供。また、単元毎など分野別の結果や各設問の出題のねらい等を提供することを検討。</p>	<p>【教育委員会】</p> <p>○CBT-IRT導入に当たっては、各学校等のICT機器の整備状況に左右されるため、マンパワーの確保及びハード整備の面から慎重に検討するとともに、シミュレーションを入念に行い、十分な検討を経て実施を。</p> <p>○CBTの導入が前提とされているが、パソコン操作に不慣れな高校生がいることに留意が必要。</p> <p>○IRTの場合は問題が非公表とされているが、どのように指導改善に生かすのか。</p> <p>○学習改善や指導改善に生かせる形で結果の提供があるのか。</p> <p>【高校】</p> <p>○評価段階は、5段階くらいがよいのではないか。詳細にすると、企業や教員など評価する側が難しい。</p>

<p>実施回数・時期・場所</p>	<p>○CBT-IRTが円滑に導入された場合、実施時期・回数を制限せずに学校・生徒の都合に合わせて弾力的に運用することが可能。 ○導入当初は、夏から秋までを基本に、高校2・3年で生徒がそれぞれの希望に応じて年間2回受検できる仕組みとし、随時見直し。 ○学校単位で受検する場合には、原則、当該高等学校の施設で実施。個人単位で受検する場合には、生徒の参加見込みも踏まえながら、高等学校や公の施設の利用などを含めて検討。</p>	<p>【教育委員会】 ○授業や学校行事、部活動等が影響を受ける可能性があることを踏まえ、生徒や学校が参加しやすい実施時期や実施方法を検討すること。 ○指導改善等に活かすならば、3年生での受検では遅いのではないか。※再掲</p> <p>【高校】 ○学習意欲の喚起、学習改善と指導改善という二つの要素が入っていることにより、 ・目的によって適切な実施時期が異なること ・進学時等に活用するテストを学校での受検として公正性が確保できるのが課題と考えられる。</p> <p>【関係団体】 ○必修科目を基本として実施する方針に理解を示す意見が多いものの、高1年次に履修する「国語総合」「数学」「コミュニケーション英語」を履修した翌年度以降に受検することが学習改善につながるのか疑問。※再掲</p>
<p>受検料</p>	<p>○受検料は、1回あたり数千円程度の低廉な価格設定となるよう検討。また、低所得世帯への支援策の在り方も併せて検討。</p>	<p>【教育委員会】 ○もっぱら指導改善に活用するテストについて、受検料を徴収することは保護者等への説明が難しい。 ○進学や就職に活用されないテストを、受検料を払ってまで受けようとはしないのではないか。 ○受検料に見合う出題内容や、結果などのフィードバックがあるのか。</p> <p>【高校】 ○指導改善のためのテストについては受検料の理解を得るのが難しいのではないか。 ○「数千円」が廉価ではない家庭環境の生徒もいる。そうした生徒に、将来どう活用するのか分からないものを使わせるのはハードルが高い。 ○有料で受検させるのではなく、問題を無料のコンテンツとしてHPIにアップしてもらえないか。それを各学校が活用できれば助かる。</p> <p>【関係団体】 ○困窮する家庭にとっては数千円の受検料負担は、心理的にも経済的にも負担感が強い。悉皆で行うべきであり、悉皆・希望制に関わらず費用は国・自治体が全額負担すべき。</p>
<p>活用の在り方</p>	<p>○生徒による主体的な活用とともに、高校での指導改善や国や都道府県等の教育施策の改善にも活用。 ○平成31年度～平成34年度までは「試行実施期」と位置付け、この期間は原則、大学入学者選抜や就職には用いず、本来の目的である学習改善に用いながら、その定着を図ることとし、そこで得られた実証的データや関係者の意見を踏まえながら検証を行い、必要な措置を講じる。 ○平成35年度以降の大学入学者選抜や就職への活用方策については、仕組みの定着状況やメリット・デメリットを十分に吟味しながら、関係者の意見を踏まえ、更に検討。</p>	<p>【教育委員会】 ○実施回数や実施時期、テストの結果を大学進学や就職等に活用することについては慎重に行うこと。 ○結果が活用されると、学校が基礎テスト対策に追われるなど、本来の目的が達成されなくなるのではないか。 ○就職時に活用されると、企業が基礎テストの結果ばかり見て評価するようになることを懸念。 ○活用例を具体的に示すことで受検が広がるのではないか。指導改善のみで生徒に受検するモチベーションを持たせられるのか。 ○活用するならば一定の基準点以上で出願資格が得られるようなものとし、一人が何度も受検できる設計が良いのではないか。</p> <p>【高校】 ○平成31～34年度までを「試行実施期間」と位置づけ、この期間は原則として大学入学者選抜や就職に用いないとしたことを評価。 ○大学入試に活用するのなら、専門高校の生徒は基礎力も専門力もあると評価してもらえるのではないか。</p>
<p>民間の知見の活用</p>	<p>○「高等学校基礎学力テスト(仮称)」の公的性質を踏まえ、継続性・安定性に留意しつつ、可能な業務は積極的に民間事業者の知見を活用することとし、英語以外の教科・科目も含め、民間との連携の在り方について検討。</p>	<p>【高校】 ○民間テストでは、個々の生徒の状況を細やかに把握できるとともに、教師に対しても丁寧な指導方法が示されており、これら民間と同じものをやることになる意味がないのではないか。</p> <p>【関係団体】 ○作問について、民間業者に丸投げするのはやめてほしい。</p>
<p>その他</p>	<p>○名称については、本中間まとめや今後の検討を踏まえつつ、高校生の基礎学力の定着度を診断するという、その目的・性質に応じた適切な名称の在り方について、引き続き検討。</p>	<p>【教育委員会】 ○基礎テストの結果は公表されるのか。公表することで全国学力・学習状況調査のような予想外の使い方をされる可能性を懸念。 ○これまで全県的な学力把握を行っておらず、基礎テストのデータは県にとって役に立つと思う。 ○県で独自に実施している実力テストとの関係をどう整理するかが課題。</p> <p>【高校】 ○結果提供について、提供を受けた都道府県がその趣旨を遵守するような具体的な対応が必要。 ○何を指すものなのか分かるような名称を早めに決めて、文科省として発信を。 ○多面的評価によって、学校や生徒が忙しくならないようにしてほしい。</p>